

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001047		
法人名	(有)モリカワコーポレーション		
事業所名	グループホーム荒子の郷 1F		
所在地	愛知県名古屋市中川区上流町2丁目20番地		
自己評価作成日	令和2年8月16日	評価結果市町村受理日	令和2年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.nhlw.go.jp/Z3/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2371001047-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和2年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会長がDrという事もあり、いつでも連絡の取れる体制になっています。また、往診や受診で日々の健康状態のチェックや状態の変化の報告をすることができ、健康面では安心して生活を送る事ができます。できるだけ最後まで住み慣れたところで暮らせるようにとの思いから、ご本人や家族の思いに寄り添い、慣れ親しんだ人たちに囲まれながら最後を迎えられるよう、ターミナルケアに力を注いでいます。入居者個々の力を把握し、ご本人の持てる力を発揮できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念「笑顔と尊敬」は具体的に7か条に落とし込み、毎朝唱和するほか年間研修にも組み込んでいます。理念に基づき今年度の目標「相手の立場で考えよう」を立案、「利用者、家族、同僚に対して自分がして欲しいと思える事を考えていく」ことを命題として日々活動しています。新管理者は理念を基軸に「考える集団になってほしい」として会議運営の改造など模索中ですが、現段階では「入浴を週3回する」といった向上点を果たせています。また、長年地域とのつきあいは深く、コロナ禍でことごとく行事が中止となる中、中止となった夏祭りの代替として子ども会には例年通りお菓子を届けるなど、細やかな心遣いを以て地域交流を続けています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔と尊敬」が理念。理念について年に1回研修をしている。朝の申し送りで、今年度の目標やケアの心得を唱和している。	理念「笑顔と尊敬」は毎朝唱和するほか年間研修にも組み込んでいます。理念に基づき今年度の目標「相手の立場で考えよう」を立案、「利用者、家族、同僚に対して自分がして欲しいと思える事を考えていく」ことを命題とし、既に成果物も出ています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	本来は獅子舞や盆踊りに参加している。夏祭りやクリスマス会などのホームの行事に町内会の子供会が参加している。近くの中学校からは、職場体験や職場見学を受け入れている。今年度は新型コロナウイルスの影響で実施できていない。	夏祭りが中止となりましたが、子ども会には例年通りお菓子を届け、お返しにプレゼントされた折り紙クラフトはリビングの壁に飾っています。認知共用型指定通所介護の利用者も引き続きおり、コロナ禍であっても地域との関係は途切れることなく続いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の啓発を行っている。また、相談をいつでも受け入れる事を伝えている。今年度は新型コロナウイルスの影響で規模縮小のため実施できてない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回のペースで開催している。運営推進会議は本来は家族代表・町内会役員・子供会・民生委員・地域包括・薬剤師・医師(会長)が参加しているが今年度は新型コロナウイルスの影響で、規模を縮小している。会議で出た意見を取り入れ、反映できるように努めている	子ども会や薬剤師など多様なメンバーを擁する運営推進会議は、3月・5月・7月は医師(法人代表者)と薬剤師、計画作成担当で参加者を絞り3名とし、「コロナ対策」「行事・レクリエーション」など今後の取組みについての話し合いを重ねています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	7月に認知症家族会へ認知症の講義を行った。	「コロナ禍での運営推進会議の開催はどのようにしたらよいか」は予め中川区役所福祉課に確認のうえ、少人数の縮小開催としており、迷う場合は必ず中川区役所福祉課へ相談しています。また東部いきいき支援センター主催の家族会向け講座では管理者が講師を担当、要請に応じています。	縮小開催の運営推進会議について名古屋市や東部いきいき支援センターの参加が書面上あったことにするためには、いったん活動または協議内容を送って意見を求め、そのうえで議事録を作成するとよいと思います。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、玄関のドアは施錠している。管理者及び職員一同は「身体拘束をしない介護」について確認し合い、全入居者が安全で穏やかな生活ができる様に考えている。身体拘束について会議の議題に上げて、話し合いをしている。	利用者が他の人の居室に入りそうになったとき、「入ったらダメ」と言ってしまった職員に、「意識をよそに向けるよう、手を挙げたり、呼びかけるような対応を～」と、即座に注意、改善を促しており、ユニット会議や研修の場にとどまらず日常を学びとしています。	身体拘束廃止未実地減算に係る書類(指針・委員会議事録・2回の研修会・随時の新入社員研修)は重要なこととの認識をもって一式まとめてファイルしておくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的だけではなく、精神的虐待についてもユニット会議や研修時に確認をしている。また、普段より利用者様の着替えや入浴時に身体に変わったところが無いかを確認し、全職員に共有する事で虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を入所してから利用している方もいる。制度について、説明し理解して頂くように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できる限り細かな説明を行い、疑問点があった際には、理解・納得して頂けるように努力している。改定時においては必要に応じ書面にて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、玄関にご意見箱を設置して、いつでも受付できるようにしている。家族からの要望や提案がある場合は、極力取り入れている。入居者からの意見や要望は、できる限り汲み取り、実践している。	面会は多い人で週2～3回、概ね月1回以上、運営推進会議にも必ず2名の参加があり、通信や新聞発行はなくともLINEで常に情報交換できており、家族とのやりとりは充実しています。オンライン面会などコロナ禍における対応も速やかに敷いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者や総務と個人面談をする機会を年に2度設け、個人の思いや希望に注目し、希望の研修などに参加できるなど、スキルアップを図ることに協力している。	自己評価並びにリーダー評価を通じて職員個々の力量や弱点を見出し、成長を促す仕組みも定着し、この制度の中で管理者や法人本部との個人面談が年2回実施されています。上限はあるも外部研修の予算が用意され、職員は希望の学びを進めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働環境の改善は出来る事から取り組んでいる。賃金面の諸手当の充実や昇給などを行っている。また、毎月管理者会議を行い、運営、職場環境について、各事業所の意見を上層部に話す機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	有料の外部研修であっても、所定の金額内であれば各自、希望の研修に行けるようにしている。また、年2回、自己評価とリーダー評価を行い、職員個々の力量や弱点を見出し成長を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センターや地域主催の行事、区内の認知症連絡会に参加して、交流ができる機会を設けている。また、近くの施設の行事に参加し交流を図っている。今年度はコロナウイルスの影響で中止となって参加できてない。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前面接を行い、本人の意向や要望、不安などに心を傾けて、いかにしたらホームでの生活を楽しめ、不安なく過ごせるか等を事前に打ち合わせている。入所後は、言葉掛けを多くし、早く生活に慣れて頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や困っている事を把握するために聞き取りを十分に行い、ご家族も話しやすい環境作りを進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネや入院先の看護師や相談員から情報を受け、家族との面談を行って、必要としている支援を見極め、不安を取り除くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の医学的な理解を深める一方で、認知症であるという概念に囚われないよう努めている。本人の尊厳を大切にし、本人主体の介護を行い、共に生活を楽しむようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者は毎月、写真と手紙を送り、近況をお伝えしたり、電話連絡を入れたりしている。職員は来所時にご本人の近況をお伝えし、家族と本人の関係が継続できるように努めている。面会に来られない家族に対してはテレビ電話も活用している。ただコロナウイルスの影響で直接の面会は2月4日から中止している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	場所等を聞き、把握すると共に、いつでも知人等の電話や手紙で連絡の仲立ちを行い、必要に応じてこれまで関わって来た人との交流が継続	家族に会えなくなると落ち着かなくなるため、「靴底のアルコール消毒」「検温」「手洗い」「うがい」とともに人数を1名にしてみよう工夫を以て、コロナ禍にあっても面会を継続させています。また、日々のドリンクも多種用意され、好みの味を楽しむことができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の言動を把握し、利用者同士が相互に支えあい、励ましあうことができるようにしている。必要に応じて職員が仲介に入り、良好な関係が維持できるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族や関係機関との連携を取り、具体的な方向性が決まるまで責任を持って対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時の情報収集や日々のアセスメントや、ふとした時に口から出る言葉や表情を考慮して、意向や希望を把握し、ケアプランやケアに取り入れるように努めている。また意向や希望等が判断できない方に関しては、利用者の情報を基にその人らしさを大切に、その人本位の検討をしている	居室担当者を定め、マンツーマンでの関わりからふとした時の表情や発語を考慮して意向や希望を把握するようにしており、特変には青文字の記録で職員間の情報共有を確かなものとしています。また、意向や想いが掴みにくい場合でも「本人本位」を基軸に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前面接を行い、本人や家族から情報を得ている。入居後は本人から生活履歴等の話を聞き出し、支援に結び付けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中でできる事、できない事、個々の能力の把握をしている。特変があった場合、記録を青字で書いて、各職員へ共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で話し合いを行っている。さらに面会時にはご家族のお話も聞き、介護計画に反映させるようにしている。	モニタリング表で個々の状態を把握のうえ、職員間のラインも頻繁で情報共有を確かなものとし、毎月ユニット会議を開催して、話し合いの中で更に「把握」と「共有」を高めています。家族への直接説明は面会を活用しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々の介護記録に状態や記録をしており、特変時には、青字で記入することで、職員間で情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じてお墓参りや買い物、通院の支援を行っている。また、職員間でアイデアを出し合い、相談しながら取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子供会や民生委員との関係強化に努め良好な関係が築けている。いきいき支援センターとの関係作りにも努め、職員ができるだけ参加するようにしている。今年度はコロナウイルスの影響で参加出来ていないことが多いが、子供会に対しては、例年通りお菓子をお渡しし、お返しに絵をいただき交流を図って		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	会長・社長が医者という事もあり、往診や受診等で健康管理をしている。病状等医師からの説明も細目にして、医院で治療が困難な場合は検査機関等を紹介したりしている。	法人代表者が医師であり、協力医を兼ねていて、医療連携が密です。全体診療も併せておこなう1日1名の訪問診療があり、毎日医師の目視による健康管理があるほか、週2回看護師の勤務も配され、大変安心な環境をつくっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が週2日勤務しており、日々の情報は常に報告相談できる環境にある。休日等は会長にメールや電話等で相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した場合はホームでの生活の様子を情報提供し、入院中の様子を確認するために面会に行き、退院が決まったら病院からの情報提供をお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や事あるごとに看取りについて確認をしている。ほとんどの方が、終の棲家として入所され、家族には今までに看取りをしてきた方の話を機会がある時にしている。看取りはチームで行うものと考え、職員には事あるごとに終の棲家について話をしている。	終の棲家として「最期まで此处で～」と希望する家族(本人)が大半です。事業所でもその要望に応えたいとして毎年ホーム内研修を実施、特に「看取りは家族や医師を含むチームで取り組むもの～」といった心構えや考え方に及んで指導しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年緊急時や事故発生時のホーム内研修を行い、訓練をしている。夜勤を担当する職員は特に連絡体制の手順と徹底を教育訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は毎年昼夜1回ずつ行っている。避難場所の確認や備蓄の確認等も行い、スタッフが把握している。	防火管理者を定め、日中と夜間の想定で各1回ずつ、年2回の防災訓練をおこなっています。1名は職員と一緒に消火器をつかい、利用者2名も実践参加しています。また、備蓄を整備し、非常食は毎月消費して新しく入替しています。	非常食3日分、ランタン、カセットコンロと備蓄は揃っていますが、改めて数量や使い方などを見直して有事に活躍できるものとしていくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念である笑顔と尊敬を忘れず、その人本位の考え、その人らしさを尊重するように努めている。プライバシー保護に関しては、契約時に個人情報の取り扱いについて説明し、同意を得ている。	「～ちゃん」は禁止ですが、本人本位に接することも大切として、柔軟に考えています。終末期で食事が摂れない中、「お酒が飲みたい」との希望を主治医と相談して叶えた例等、その人の想いを尊重することは理念に通ずることであり、概ね職員に浸透しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できることやしてみたいことを利用者と職員と一緒に探し、それが実現できるように努めている。ユニット会議で議題として年に何度も上げ、職員間で共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースを尊重するようにしている。その日の活動は職員の思いを押し付けないようにし、本人の意向を尊重するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定を尊重し、季節や天候に合わせて、洋服の提案を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に合わせて、準備や片づけの協力をお願いしている。時には、ホットプレートを使ってお好み焼きを一緒に作ったり、おやつ作りをしている。季節の旬の食材が食べられるようにと、メニューを考え提供している。	旬の食材を盛り込み、職員手作りの食事が毎日提供され、お好み焼きなどホットプレートをつかった参加型の調理レクも実施しています。その人のできる範囲で準備や片付けの協力をお願いしており、職員も食卓を囲み、賑やかです。	検食はありますが、状態把握とともに向上点を見いだせるよう、検食簿(良い点・改善点)をつけることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が少ない方には、チェック表を作り、把握をしている。体重の増減を毎月確認している。個々の嚥下状態を把握し、一人ひとりに合わせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをしている。歯科衛生士による口腔ケアを動画に撮り、手技を職員に取得してもらうように促している。毎週、歯科衛生士の指導を受け清潔保持に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	元ある状態に戻すという考えのもと、排泄パターンを把握し、可能な方は布パンツで生活できるように支援している。失禁がないように、早めに声かけをしている。	排泄チェック表でリズムを掴み、早め早めの声かけで失禁を減らしています。また、便秘対策として食物繊維を多く含むココアやお米に寒天を混ぜて炊くといった工夫に取り組み、「利用者一人ひとりの症状を掴み、3日便が出なければ…」との決め事も明瞭です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維をなるべく多く摂取できるように、ココアを提供したり、ご飯やおかゆを炊く時に寒天を入れている。食事コントロールで難しい場合は主治医に相談し下剤の調整等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状、入浴が自由に入れる事はできていない。必ず週に3回は入浴できるようにしている。季節に合わせて入浴が楽しめるようにゆず湯やバラ風呂、菖蒲湯などを行っている。	介護度5の人が4名いることもあり、現在2人介助が必要な利用者は6名いますが、ゆず湯や菖蒲湯などの時節風呂のほかバラを浮かべる日もあり、楽しみを付加させています。むくみが酷い人が7名もあり、足浴も盛んに取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースを尊重し、日中は作業的な活動だけでなくテレビ、ビデオなどを見てゆっくり過ごせるような環境作りを行っている。夜間良眠できるように、日中好きなことやしたいことを十分にできるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく薬が処方される場合は職員に申し送りを行い、薬剤情報の確認を促している。先月分も含めて、薬剤情報はいつでも見れるように生活記録と一緒にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なこと苦手なことを把握し、頼りにされることでホームでの存在意義を見出し、各入居者が持てる力を発揮できるように支援をしている。また皆で歌を歌ったり、体操で体力維持、カルタなどで楽しい時間を過ごしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	4ヶ月ごとにモーニングを食べに行っているが、日常的な外出は近隣の散歩が主になっている。季節ごとに、花見や盆踊りに出かけているが今年度は新型コロナウイルスの影響で散歩のみの実施となっている。	年3回の喫茶探訪を楽しみとし、普段は家族の協力を得て墓参りや買い物へと出かけています。コロナ禍なこともあり、現在は近隣散歩が主となっていますが、7月は雨、8月は猛暑で散歩もままならない日々が続いています。	室内レクリエーションをいかに外出に近づけるかを考慮して、模擬喫茶などが実現することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に家族が金銭の管理をしている。ただし、本人の安心につながるのであれば、家族と相談のうえ、少額を持てるようにしていることがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができるように、切手やはがきを常時保管している。電話は希望があれば、いつでもできるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	極力、派手な飾りつけはせず、入居者の作品を中心に飾っている。天井が高く、天窓がある為、開放感があり明るくなるよう設計されている。木の梁が見える事で温かみのあるフロアになっている。湿度計を設置し、常に45%を維持するように心がけている。	開放感があり、明るい共用空間では、室温はエアコンで、また湿気は湿度計を設置、常に45%を維持するように心がけています。掃除方法は今まで通りですが、換気は意識的に増やし、インフルエンザが猛威を振るう時期よりも頻回です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルだけではなく、ソファを置き自由に楽しめる工夫をしています。テレビや音楽も本人が自由に楽しめるように言葉かけを行っています。気の合う利用者が隣同士になれるように配慮するなど適宜最適なレイアウトをこころがけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自分が使っていた家具を持ち込んでもらったり、家族写真を飾ったりして居心地よく過ごせるようにしている。	「馴染んだものを～」と案内しており、筆筒やテレビなどの持ち込みとともに、目に入る場所に家族写真を貼りだしている居室もあります。夜カーテンが気になって触る為ベッドの位置を移動した例もあり、随時症状や状態でレイアウトを変更しています(家族、本人とも相談のうえ)。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所の場所がわかるように名札をつけたり、自室がわかるように名前を掲げたりして分かるようにしている。建物内はすべてバリアフリー構造になっており、手摺も歩行可能な場所にすべて取り付けてある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001047		
法人名	(有)モリカワコーポレーション		
事業所名	グループホーム荒子の郷 2F		
所在地	愛知県名古屋市中川区上流町2丁目20番地		
自己評価作成日	令和2年8月16日	評価結果市町村受理日	令和2年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.mhlw.go.jp/Z3/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2371001047-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和2年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会長がDrという事もあり、往診や受診で日々の健康状態のチェックや状態の変化の報告をすることができ、健康面では安心して生活を送る事ができます。できるだけ最後まで暮らせるようにとの思いから、ご本人や家族の思いに寄り添い、慣れ親しんだ人たちに囲まれながら最後を迎えられるよう、ターミナルケアに力を注いでいます。ご本人の持てる力を発揮できるように個々の力を把握し、皆で協力しながら、毎日を過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念「笑顔と尊敬」は具体的に7か条に落とし込み、毎朝唱和するほか年間研修にも組み込んでいます。理念に基づき今年度の目標「相手の立場で考えよう」を立案、「利用者、家族、同僚に対して自分がして欲しいと思える事を考えていく」ことを命題として日々活動しています。新管理者は理念を基軸に「考える集団になってほしい」として会議運営の改造など模索中ですが、現段階では「入浴を週3回する」といった向上点を果たせています。また、長年地域とのつきあいは深く、コロナ禍でことごとく行事が中止となる中、中止となった夏祭りの代替として子ども会には例年通りお菓子を届けるなど、細やかな心遣いを以て地域交流を続けています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔と尊敬」が理念。理念について年に1回研修をしている。朝の申し送りで、今年度の目標やケアの心得を唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	従来であれば獅子舞や盆踊りに参加、夏祭りやクリスマス会などのホームの行事に町内会の子供会が参加するが、コロナウイルス感染渦の為、今年度は実施できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の啓発を行い、相談をいつでも受け入れる体制を取っている。また、いきいき支援センターにて行われる認知症サポーターキャラバンの講師として参加して認知症の啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回のペースで開催している。従来であれば、運営推進会議は家族代表・町内会役員・子供会・民生委員・地域包括・薬剤師・医師(会長)が参加しているが、コロナウイルス感染渦の為、規模を縮小して実施している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	7月に認知症家族会へ認知症の講義を行った。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、玄関のドアは施錠している。管理者及び職員一同は「身体拘束をしない介護」について確認し合い、全入居者が安全で穏やかな生活ができる様に考えている。身体拘束については、たびたび会議の議題に上げて、話し合いをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけではなく、言葉による虐待や薬による虐待等についてもユニット会議や研修時に確認をして話し合いをしている。また、普段より利用者様の着替えや入浴時に身体にうっ血などが無いかを確認し、全職員に注意喚起をする事で虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を入所してから利用している方もいる。制度について、説明し理解して頂くように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際は、十分な説明を行い、本人の思い、家族の思いの実現に向けた個別の要望にどこまでサービス提供できるかよく話し合いをします。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際にはこちらから要望等がないか問いかけている。面会に頻回に来れない方とはテレビ電話やメールで個別に対応させて頂いています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	認知症になっても当たり前のことが当たり前出来る生活送ってほしい。その想いは職員に伝わっており、その為にはどのようなケアが良いのかを考え、実現のための提案は積極的に取り入れ、ご利用者さまの変化を共有しモチベーションに繋げています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働環境の改善は出来る事から取り組んでいる。賃金面の諸手当の充実や昇給などを行っている。また、毎月管理者会議を行い、運営、職場環境について、各事業所の意見を上層部に話す機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	有料の外部研修であっても、所定の金額内であれば各自、希望の研修に行けるようにしている。また、年2回、自己評価とリーダー評価を行い、職員個々の力量や弱点を見出し成長を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いきいき支援センターや地域主催の行事、区内の認知症連絡会に参加して、交流ができる機会を設けている。また、近くの施設の行事に参加し交流を図っている。今年度はコロナウイルスの影響で中止となって参加できていない。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前面接を行い、本人の意向や要望、不安などに心を傾けて、いかにしたらホームでの生活を楽しめ、不安なく過ごせるか等を事前に打ち合わせている。入所後は、言葉掛けを多くし、早く生活に慣れて頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や困っている事を把握するために聞き取りを十分に行い、ご家族も話しやすい環境作りを進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネジャーや入院先の看護師や相談員から情報を受け、家族との面談を行って、必要としている支援を見極め、不安を取り除くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の医学的な理解を深める一方で、認知症であるという概念に囚われないよう努めている。本人の尊厳を大切にし、本人主体の介護を行い、共に生活を楽しむようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者は毎月、写真と手紙を送り、近況をお伝えしたり、電話連絡を入れたりしている。職員は来所時にご本人の近況をお伝えし、家族と本人の関係が継続できるように努めている。ただコロナウイルスの影響で直接の面会は8月4日から中止しており、オンライン面会を進めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大浴場や家族の話、生活歴等から馴染みの場所等を聞き、把握すると共に、いつでも知人等の電話や手紙で連絡の仲立ちを行い、必要に応じてこれまで関わって来た人との交流が継続		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の性質、認知症の進行の程度差から、摩擦が生じることがありますが、生活を共にする仲間としての助け合いの場面もある。楽しい生活を送れるように職員は潤滑油の役割を果たし、力関係に配慮して支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族や関係機関との連携を取り、具体的な方向性が決まるまで責任を持って対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時の情報収集や日々のアセスメントや、ふとした時に口から出る言葉や表情を考慮して、意向や希望を把握し、ケアプランやケアに取り入れるように努めている。また意向や希望等が判断できない方に関しては、利用者の情報を基にその人らしさを大切に、その人本位の検討をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前面接を行い、本人や家族から情報を得ている。入居後は本人が繰り返し話されることや行動の情報を職員間で共有し、家族様などからの話しと照らし合わせるなど本人理解に努め、支援に結び付けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の中、日々変化する心身の状態変化や様子を職員間で共有し、チームケアをおこなっている。朝のミーティング、昼またはその都度、職員同士で気になることを相談、検討することで変化に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が望む生活とはどのような生活かを視点として、何が出来るか、どこまで出来るかを日々の状態や変化から検討、支援をおこなっている。また、面会時にはご家族のお話も聞き、介護計画に反映するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々の介護記録に状態の変化を記録しており、特変時には、青字で記入することで、職員間で情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて買い物や外食の支援を行っている。また、職員間でアイデアを出し合い、相談しながら取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子供会や民生委員との関係強化に努め良好な関係が築けている。いきいき支援センターとの関係作りにも努め、職員ができるだけ参加するようにしている。今年度はコロナウイルスの影響で参加出来ていないことが多いが、子供会に対しては、例年通りお菓子をお渡しし、お返しに絵をいただき交流を図って		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	会長・社長がDrという事もあり、往診や受診等で健康管理をしている。病状等医師からの説明も細目にして、医院で治療が困難な場合は検査機関等を紹介したりしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が週2日勤務しており、日々の情報は常に報告相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は、職員は必ず同行し、情報提供、本人・ご家族の支援をおこない、本人のダメージを最小限に抑えることを目的とした早期退院に努めます。入院期間中はこまめに足を運び、相談室との連携、状態確認と共に安心感とダメージ軽減に努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や事あるごとに看取りについて確認をしている。ほとんどの方が、終の棲家として入所され、家族には今までに看取りをしてきた方の話を機会がある時にしている。看取りはチームで行うものと考え、職員には事あるごとに終の棲家について話をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年緊急時や事故発生時のホーム内研修を行い、訓練をしている。夜勤を担当する職員は特に連絡体制の手順と徹底を教育訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は毎年昼夜1回ずつ行っている。避難場所の確認や備蓄の確認等も行い、スタッフが把握している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念である笑顔と尊敬を忘れず、入居者の個性、今の姿を受容し、「認知症の人」である前に、本人の今まで生きてこられた人生を尊重した関わりに努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できることやしてみたいことを利用者と職員と一緒に探し、それが実現できるように努めている。ユニット会議で議題として年に何度も上げ、職員間で共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが、個々の気分を尊重した柔軟な対応に努めている。食事を今は食べたくない、夜食が食べたい、まだ寝たくないなど、本人の要望やそのような様子がみられた時、本人の要望に合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定を尊重し、季節や天候に合わせて、洋服の提案を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々の力に合わせて、準備や片づけの協力をお願いしている。時には、ホットプレートを使ってお好み焼きを一緒に作ったり、おやつ作りをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が少ない方には、チェック表を作り、把握をしている。体重の増減を毎月確認している。個々の嚥下状態を把握し、一人ひとりに合わせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをしている。誤嚥性肺炎の可能性のある方は、マウスウォッシュを用いてケアをしている。歯科衛生士による口腔ケアを動画に撮り、手技を職員に取得してもらうように促している。毎週、歯科衛生士の指導を受け清潔保持に努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	元ある状態に戻すという考えのもと、排泄パターンを把握し、可能な方は布パンツで生活できるように支援している。失禁がないように、早めに声かけをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維をなるべく多く摂取できるように、ご飯やおかゆを炊く時に寒天を入れている。食事コントロールで難しい場合は主治医に相談し下剤の調整等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状、入浴が自由に入れる事はできていない。必ず週に3回は入浴できるようにしている。季節に合わせて入浴が楽しめるようにゆず湯やバラ風呂、菖蒲湯などを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースを尊重し、日中は作業的な活動だけでなくテレビ、ビデオなどを見てゆっくり過ごせるような環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく薬が処方される場合は職員に申し送りを行い、薬剤情報の確認を促している。先月分も含めて、薬剤情報はいつでも見れるように生活記録と一緒にしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なこと苦手なことを把握し、頼りにされることでホームでの存在意義を見出し、各入居者が持てる力を発揮できるように支援をしている。また皆で歌を歌ったり、体操で体力維持、カルタなどで楽しい時間を過ごしている。単調な毎日とならないように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	4ヶ月ごとにモーニングを食べに行っているが、日常的な外出は近隣の散歩が主になっている。季節ごとに、花見や盆踊りに出かけているが今年度は新型コロナウイルスの影響で散歩のみの実施となっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に家族が金銭の管理をしている。ただし、本人の安心につながるのであれば、家族と相談のうえ、少額を持てるようにしていたことがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができるように、切手やはがきを常時保管している。電話は希望があれば、いつでもできるようになっている。遠方で面会が困難な場合はテレビ電話を用いてオンライン面会を実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	極力、派手な飾りつけはせず、季節に合わせた絵などを飾っている。天井が高く、天窗がある為、開放感があり明るくなるよう設計されている。木の梁が見える事で温かみのあるフロアになっている。湿度計を設置し、常に45%を維持するように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々にそれぞれ落ち着く場所・自分の居場所がある程度決まっています。それぞれがその居場所に落ち着けるように配慮している。また、気の合う利用者が隣同士なれるように配慮するなど適宜最適なレイアウトをこころがけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自分が使っていた家具を持ち込んでもらったり、家族写真を飾ったりして居心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所の場所がわかるように名札をつけたり、自室がわかるように名前を掲げたりして分かるようにしている。建物内はすべてバリアフリー構造になっており、手摺も歩行可能な場所にすべて取り付けてある。		